

第 2 章 空間のベクトル

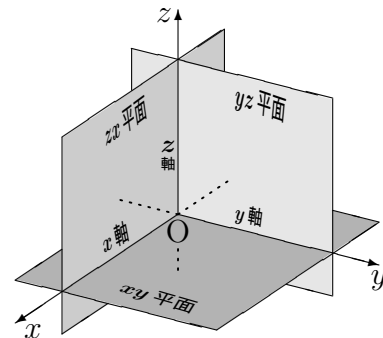
2.1.1 空間の点

直線上の点や平面上の点は、数直線や座標軸を考えることにより、座標を用いて表すことができた。空間においても、点の座標を考えてみよう。

A 空間の点の座標

空間に点 O をとり、 O で互いに直交する 3 本の数直線を、右の図のように定める。これらを、それぞれ x 軸、 y 軸、 z 軸といい、まとめて座標軸という。また、点 O を原点という。さらに

x 軸と y 軸で定まる平面を xy 平面、
 y 軸と z 軸で定まる平面を yz 平面、
 z 軸と x 軸で定まる平面を zx 平面
 といい、これらをまとめて座標平面という。

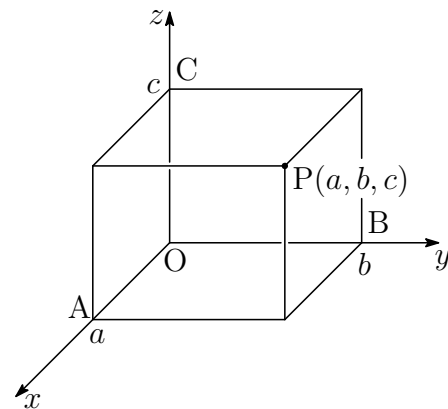


空間の点 P に対して、 P を通り各座標軸に垂直な平面が、 x 軸、 y 軸、 z 軸と交わる点を、それぞれ A 、 B 、 C とする。 A 、 B 、 C の各座標軸上での座標が、それぞれ a 、 b 、 c のとき、3 つの実数の組

$$(a, b, c)$$

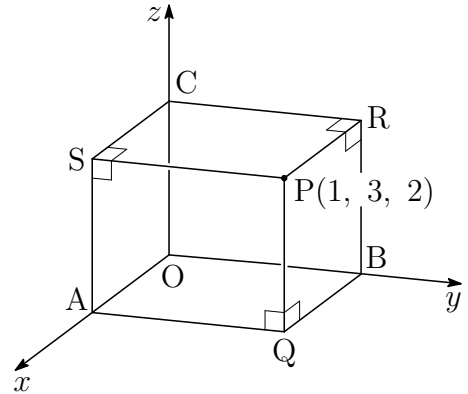
を点 P の座標といい、 a 、 b 、 c をそれぞれ点 P の x 座標、 y 座標、 z 座標という。この点 P を $P(a, b, c)$ と書くことがある。原点 O と、右上の図の点 A 、 B 、 C については、 $O(0, 0, 0)$ 、 $A(a, 0, 0)$ 、 $B(0, b, 0)$ 、 $C(0, 0, c)$ である。

座標の定められた空間を座標空間という。



48 第2章 空間のベクトル

例 2.1 点 $P(1, 3, 2)$ から xy 平面, yz 平面, zx 平面に垂線を下ろし, 各平面との交点を, それぞれ Q, R, S とすると, $Q(1, 3, 0), R(0, 3, 2), S(1, 0, 2)$ である.
 xy 平面についてこの点 P と対称な点の座標は, $(1, 3, -2)$ である.



練習 2.1 次の平面について点 $P(1, 3, 2)$ と対称な点の座標を, それぞれ求めよ.

- (1) yz 平面
- (2) zx 平面

B 原点 O と点 P の距離

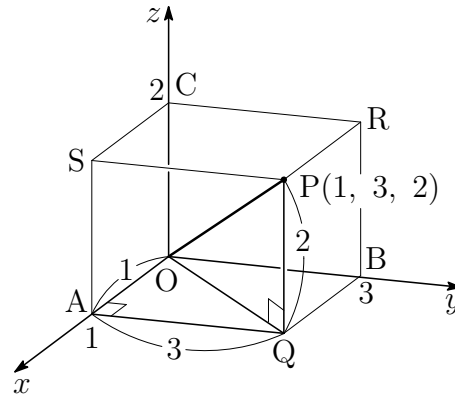
例 2.1 において, 原点 O と点 P の距離を求めてみよう.
 三平方の定理を使うと

$$\begin{aligned} OP^2 &= OQ^2 + PQ^2 \\ &= (OA^2 + AQ^2) + PQ^2 \\ &= 1^2 + 3^2 + 2^2 \\ &= 14 \end{aligned}$$

$OP > 0$ であるから $OP = \sqrt{14}$

点 P の座標が (a, b, c) のときは, $OP^2 = a^2 + b^2 + c^2$ となるから, 次のことが成り立つ.

原点 O と点 $P(a, b, c)$ の距離は $OP = \sqrt{a^2 + b^2 + c^2}$



練習 2.2 原点 O と次の点の距離を求めよ.

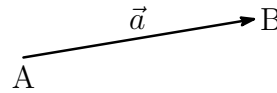
- (1) $P(2, 3, 6)$
- (2) $Q(3, 4, -5)$

2.1.2 空間のベクトル

空間においても，平面の場合と同様に有向線分を考えることができる．空間の有向線分で，向きと大きさだけに着目したものが空間のベクトルである．ここでは，空間のベクトルについて考えてみよう．

A 空間のベクトル

空間において，始点を A ，終点を B とする有向線分 AB で表されるベクトルを \overrightarrow{AB} で表し，その大きさを $|\overrightarrow{AB}|$ で表す．



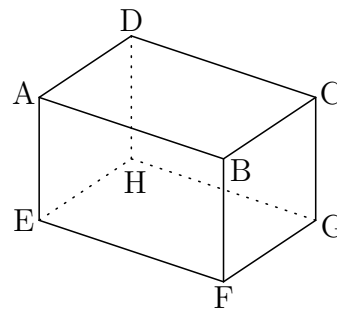
空間のベクトルも \vec{a} , \vec{b} など表すことがある．このとき， $\vec{a} = \vec{b}$ や， \vec{a} の逆ベクトル $-\vec{a}$ の定義は，平面の場合とまったく同じである．

大きさが 0 のベクトルを零ベクトルといい， $\vec{0}$ で表す．また，大きさが 1 のベクトルを単位ベクトルという．

例 2.2 右の図の直方体において，始点，終点がともに頂点となる有向線分でベクトルを考えると

$$\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{DC} = \overrightarrow{EF} = \overrightarrow{HG}$$

また， \overrightarrow{CD} , \overrightarrow{FE} , \overrightarrow{GH} は，いずれも \overrightarrow{AB} の逆ベクトルである．



練習 2.3 例 2.2 において， \overrightarrow{AE} に等しいベクトルをあげよ．また， \overrightarrow{AD} の逆ベクトルで \overrightarrow{DA} 以外のものをあげよ．

50 第2章 空間のベクトル

空間のベクトルの和と差, 実数倍の定義も, 平面の場合とまったく同じである. さらに, それらに成り立つ性質は, 空間のベクトルに対してもそのまま成り立つ.

例 2.3 右の図の立体は直方体である.

$$(1) \overrightarrow{DH} = \overrightarrow{BF} = \overrightarrow{AE} \text{ であるから}$$

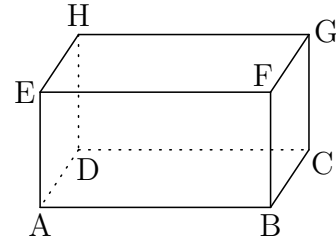
$$\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{DH} = \overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BF} = \overrightarrow{AF}$$

$$\overrightarrow{AB} - \overrightarrow{DH} = \overrightarrow{AB} - \overrightarrow{AE} = \overrightarrow{EB}$$

$$(2) \overrightarrow{AD} = \overrightarrow{BC}, \overrightarrow{AE} = \overrightarrow{CG} \text{ であるから}$$

$$\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{AD} + \overrightarrow{AE} = (\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BC}) + \overrightarrow{CG}$$

$$= \overrightarrow{AC} + \overrightarrow{CG} = \overrightarrow{AG}$$



練習 2.4 例 2.3 の直方体において, 次の□に適する頂点を求めよ.

$$(1) \overrightarrow{AB} + \overrightarrow{FG} = \overrightarrow{A\Box}$$

$$(2) \overrightarrow{AD} - \overrightarrow{EF} = \overrightarrow{\Box D}$$

B ベクトルの分解

2つずつ平行な3組の平面で囲まれる立体を平行六面体という．直方体も平行六面体である．平行六面体には，次のような性質がある．

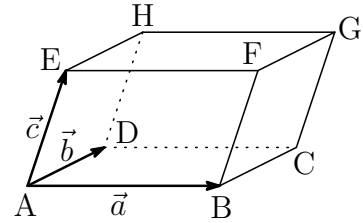
平行六面体の各面は，平行四辺形である．

例題 2.1 右の図の平行六面体において，

$$\overrightarrow{AB} = \vec{a}, \overrightarrow{AD} = \vec{b}, \overrightarrow{AE} = \vec{c}$$

とするとき，次のベクトルを $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ を用いて表せ．

(1) \overrightarrow{AG} (2) \overrightarrow{FD}



【解】 (1) $\overrightarrow{AG} = \overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BC} + \overrightarrow{CG} = \vec{a} + \vec{b} + \vec{c}$

(2) $\overrightarrow{FD} = \overrightarrow{FE} + \overrightarrow{EH} + \overrightarrow{HD} = -\vec{a} + \vec{b} + (-\vec{c})$
 $= -\vec{a} + \vec{b} - \vec{c}$

練習 2.5 例題 2.1 の平行六面体の図において，次のベクトルを $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ を用いて表せ．

(1) \overrightarrow{EC}

(2) \overrightarrow{BH}

(3) \overrightarrow{DF}

52 第2章 空間のベクトル

空間において、同じ平面上にない4点 O, A, B, C が与えられたとき、次のことが成り立つ。

$\overrightarrow{OA} = \vec{a}, \overrightarrow{OB} = \vec{b}, \overrightarrow{OC} = \vec{c}$ とすると、この空間のどんなベクトル \vec{p} も、適当な実数 s, t, u を用いて

$$\vec{p} = s\vec{a} + t\vec{b} + u\vec{c}$$

の形に表すことができる。

[証明] $\vec{p} = \overrightarrow{OP}$ とする。

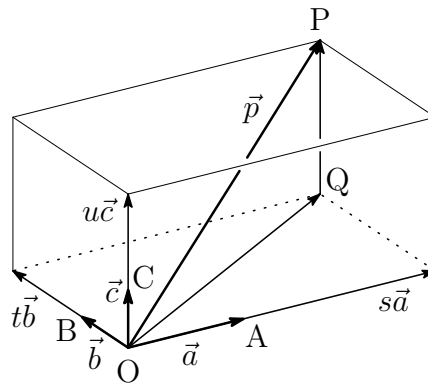
点 P を通り直線 OC に平行な直線を引き、3点 O, A, B を通る平面 OAB ¹ との交点を Q とすると、次が成り立つ。

$$\overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OQ} + \overrightarrow{QP} \quad \dots \textcircled{1}$$

[1] 点 Q が平面 OAB 上にあることから、 $\overrightarrow{OQ} = s\vec{a} + t\vec{b}$ となる実数 s, t がただ1組定まる。

[2] $\overrightarrow{OC} // \overrightarrow{QP}$ より、 $\overrightarrow{QP} = u\vec{c}$ となる実数 u がただ1つ定まる。

①と[1][2]により、 $\vec{p} = s\vec{a} + t\vec{b} + u\vec{c}$ となる実数 s, t, u がただ1組定まる。 [証終]



¹ 一直線上にない3点 O, A, B を通る平面は、ただ1つ定まる。この平面を、平面 OAB ということがある。

2.1.3 ベクトルの成分

座標空間でベクトルを考えて、ベクトルの表示について座標を利用してみよう。
ここでは、空間のベクトルの成分表示について学ぶ。

A ベクトルの成分表示

座標空間において、 x 軸、 y 軸、 z 軸の正の向きと同じ向きの単位ベクトルを基本ベクトルといい、それぞれ \vec{e}_1 , \vec{e}_2 , \vec{e}_3 で表す。

この空間のベクトル \vec{a} に対し、 $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$ である点 A の座標が

$$(a_1, a_2, a_3)$$

のとき、 \vec{a} は次のように表される。

$$\vec{a} = a_1\vec{e}_1 + a_2\vec{e}_2 + a_3\vec{e}_3$$

この \vec{a} を、次のようにも書く。

$$\vec{a} = (a_1, a_2, a_3) \quad \text{①}$$

a_1, a_2, a_3 を、それぞれ \vec{a} の x 成分、 y 成分、 z 成分といい、まとめて \vec{a} の成分という。また、①を \vec{a} の成分表示という。

空間の基本ベクトル $\vec{e}_1, \vec{e}_2, \vec{e}_3$ の成分表示は、次のようになる。

$$\vec{e}_1 = (1, 0, 0), \quad \vec{e}_2 = (0, 1, 0), \quad \vec{e}_3 = (0, 0, 1)$$

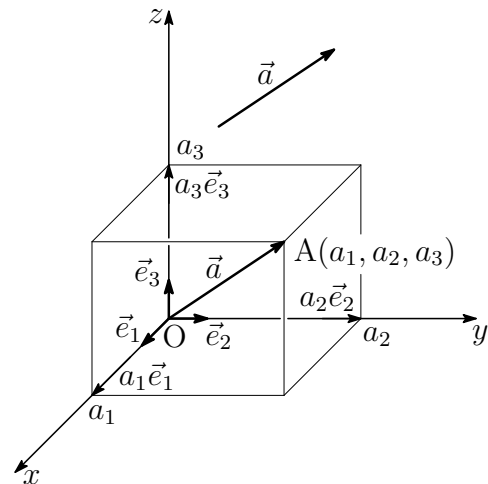
空間の零ベクトル $\vec{0}$ の成分表示は、 $\vec{0} = (0, 0, 0)$ である。

また、空間の2つのベクトル $\vec{a} = (a_1, a_2, a_3)$, $\vec{b} = (b_1, b_2, b_3)$ について、次が成り立つ。

$$\vec{a} = \vec{b} \iff a_1 = b_1, a_2 = b_2, a_3 = b_3$$

練習 2.6 次のベクトル \vec{a}, \vec{b} が等しくなるように、 x, y, z の値を定めよ。

$$\vec{a} = (2, -1, -3), \quad \vec{b} = (x - 4, y + 2, -z + 1)$$



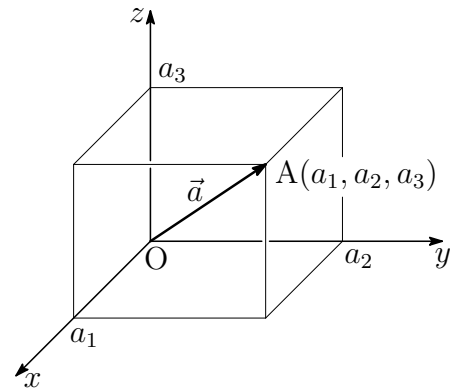
54 第2章 空間のベクトル

座標空間において, $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$ となる点 A
の座標が (a_1, a_2, a_3) であるとする.
このとき

$$\begin{aligned} |\vec{a}| &= OA \\ &= \sqrt{a_1^2 + a_2^2 + a_3^2} \end{aligned}$$

である.

したがって, 次のことが成り立つ.



ベクトルの大きさ

$$\vec{a} = (a_1, a_2, a_3) \text{ の大きさは } |\vec{a}| = \sqrt{a_1^2 + a_2^2 + a_3^2}$$

練習 2.7 次のベクトルの大きさを求めよ.

(1) $\vec{a} = (3, 4, 5)$

(2) $\vec{b} = (-1, 2, -2)$

B 和, 差, 実数倍の成分表示

平面上の場合と同様にして, 空間のベクトルの和, 差, 実数倍の成分表示は, 次のようになる.

和, 差, 実数倍の成分表示

$$(a_1, a_2, a_3) + (b_1, b_2, b_3) = (a_1 + b_1, a_2 + b_2, a_3 + b_3)$$

$$(a_1, a_2, a_3) - (b_1, b_2, b_3) = (a_1 - b_1, a_2 - b_2, a_3 - b_3)$$

$$k(a_1, a_2, a_3) = (ka_1, ka_2, ka_3) \quad k \text{ は実数}$$

56 第2章 空間のベクトル

C 座標空間の点とベクトル

原点 O と 2 点 $A(a_1, a_2, a_3)$, $B(b_1, b_2, b_3)$ について, \overrightarrow{AB} の成分は, 次のようになる.

$$\begin{aligned}\overrightarrow{AB} &= \overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA} = (b_1, b_2, b_3) - (a_1, a_2, a_3) \\ &= (b_1 - a_1, b_2 - a_2, b_3 - a_3)\end{aligned}$$

したがって, 次のことがいえる.

2 点 A, B とベクトル \overrightarrow{AB}

2 点 $A(a_1, a_2, a_3)$, $B(b_1, b_2, b_3)$ について

$$\overrightarrow{AB} = (b_1 - a_1, b_2 - a_2, b_3 - a_3)$$

$$|\overrightarrow{AB}| = \sqrt{(b_1 - a_1)^2 + (b_2 - a_2)^2 + (b_3 - a_3)^2}$$

例 2.5 2 点 $A(-1, 0, 2)$, $B(2, 4, -3)$ について

$$\overrightarrow{AB} = (2 - (-1), 4 - 0, -3 - 2) = (3, 4, -5)$$

$$|\overrightarrow{AB}| = \sqrt{3^2 + 4^2 + (-5)^2} = \sqrt{50} = 5\sqrt{2}$$

練習 2.9 次の 2 点 A, B について, \overrightarrow{AB} を成分表示し, $|\overrightarrow{AB}|$ を求めよ.

(1) $A(2, 1, 4)$, $B(3, -1, 5)$

(2) $A(3, 0, -2)$, $B(1, -4, 2)$

2.1.4 ベクトルの内積

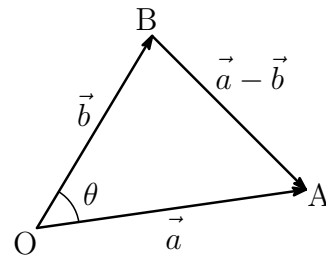
平面上の2つのベクトルの内積は、三角形の余弦定理に関連して定義した。まったく同様にして、空間のベクトルにも内積を定義することができる。

A 空間のベクトルの内積

空間の $\vec{0}$ でない2つのベクトル \vec{a}, \vec{b} について、そのなす角 θ を平面の場合と同様に定義し、内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ も同じ式

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos \theta$$

で定義する。



空間のベクトルについても、16 ページで示した等式

$$|\vec{a} - \vec{b}|^2 = |\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 - 2(\vec{a} \cdot \vec{b})$$

が成り立つので、 $\vec{a} = (a_1, a_2, a_3)$ 、 $\vec{b} = (b_1, b_2, b_3)$ とすると

$$\begin{aligned} (a_1 - b_1)^2 + (a_2 - b_2)^2 + (a_3 - b_3)^2 \\ = (a_1^2 + a_2^2 + a_3^2) + (b_1^2 + b_2^2 + b_3^2) - 2(\vec{a} \cdot \vec{b}) \end{aligned}$$

整理すると $\vec{a} \cdot \vec{b} = a_1 b_1 + a_2 b_2 + a_3 b_3$

したがって、次のことがいえる。

ベクトルの内積

$\vec{a} = (a_1, a_2, a_3)$ 、 $\vec{b} = (b_1, b_2, b_3)$ は $\vec{0}$ でないとし、そのなす角を θ とする。ただし、 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ である。このとき

$$1 \quad \vec{a} \cdot \vec{b} = a_1 b_1 + a_2 b_2 + a_3 b_3$$

$$2 \quad \cos \theta = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}| |\vec{b}|} = \frac{a_1 b_1 + a_2 b_2 + a_3 b_3}{\sqrt{a_1^2 + a_2^2 + a_3^2} \sqrt{b_1^2 + b_2^2 + b_3^2}}$$

$\vec{a} = \vec{0}$ または $\vec{b} = \vec{0}$ のときは、 $\vec{a} \cdot \vec{b} = 0$ と定義する。

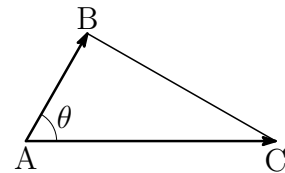
58 第2章 空間のベクトル

例題 2.2 3点 $A(1, 3, 2)$, $B(2, 5, 3)$, $C(-1, 5, 6)$ を頂点とする $\triangle ABC$ について, 次のものを求めよ.

- (1) 内積 $\vec{AB} \cdot \vec{AC}$ (2) $\angle BAC$ の大きさ θ

【解】 (1) $\vec{AB} = (2 - 1, 5 - 3, 3 - 2) = (1, 2, 1)$
 $\vec{AC} = (-1 - 1, 5 - 3, 6 - 2) = (-2, 2, 4)$
よって $\vec{AB} \cdot \vec{AC} = 1 \times (-2) + 2 \times 2 + 1 \times 4$
 $= 6$

(2) $\cos \theta = \frac{\vec{AB} \cdot \vec{AC}}{|\vec{AB}| |\vec{AC}|}$
 $= \frac{6}{\sqrt{1^2 + 2^2 + 1^2} \sqrt{(-2)^2 + 2^2 + 4^2}}$
 $= \frac{6}{\sqrt{6} \sqrt{24}} = \frac{1}{2}$



$0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ であるから $\theta = 60^\circ$

練習 2.10 次の2つのベクトル \vec{a} , \vec{b} の内積およびなす角 θ を求めよ.

$\vec{a} = (2, -1, -2)$, $\vec{b} = (4, 3, -5)$

練習 2.11 3点 $A(6, 7, -8)$, $B(5, 5, -6)$, $C(6, 4, -2)$ を頂点とする $\triangle ABC$ において, $\angle ABC$ の大きさ θ を求めよ.

B ベクトルの垂直

空間のベクトルの垂直条件について、次のことが成り立つ。

ベクトルの垂直条件

$\vec{a} \neq \vec{0}, \vec{b} \neq \vec{0}$ で、 $\vec{a} = (a_1, a_2, a_3), \vec{b} = (b_1, b_2, b_3)$ のとき

$$\vec{a} \perp \vec{b} \iff \vec{a} \cdot \vec{b} = 0$$

$$\vec{a} \perp \vec{b} \iff a_1 b_1 + a_2 b_2 + a_3 b_3 = 0$$

応用例題 2.1 ベクトル $\vec{a} = (2, -1, 0), \vec{b} = (6, -2, 1)$ の両方に垂直で、大きさが2のベクトル \vec{p} を求めよ。

考え方 $\vec{p} = (x, y, z)$ として、垂直条件 $\vec{a} \cdot \vec{p} = 0, \vec{b} \cdot \vec{p} = 0$ と $|\vec{p}| = 2$ から x, y, z の方程式を導く。これを解くには、まず y, z を消去して得られる x の2次方程式を解く。

【解】 $\vec{p} = (x, y, z)$ とする。

$$\vec{a} \cdot \vec{p} = 0 \quad \text{であるから} \quad 2x - y = 0 \quad \dots \text{①}$$

$$\vec{b} \cdot \vec{p} = 0 \quad \text{であるから} \quad 6x - 2y + z = 0 \quad \dots \text{②}$$

$$|\vec{p}| = 2 \quad \text{であるから} \quad x^2 + y^2 + z^2 = 2^2 \quad \dots \text{③}$$

①, ② から、 y, z を x で表すと

$$y = 2x, z = -2x$$

これらを③に代入すると

$$x^2 + (2x)^2 + (-2x)^2 = 4$$

$$\text{整理すると} \quad 9x^2 = 4 \quad \leftarrow x^2 = \frac{4}{9}$$

$$\text{これを解くと} \quad x = \pm \frac{2}{3}$$

$$x = \frac{2}{3} \text{ のとき} \quad y = \frac{4}{3}, z = -\frac{4}{3}$$

$$x = -\frac{2}{3} \text{ のとき} \quad y = -\frac{4}{3}, z = \frac{4}{3}$$

$$\text{(答)} \quad \vec{p} = \left(\frac{2}{3}, \frac{4}{3}, -\frac{4}{3} \right) \quad \text{または} \quad \vec{p} = \left(-\frac{2}{3}, -\frac{4}{3}, \frac{4}{3} \right)$$

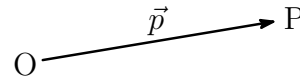
[注意] 上で求めた2つのベクトルは、互いに逆ベクトルである。

60 第2章 空間のベクトル

練習 2.12 ベクトル $\vec{a} = (1, 0, 1)$, $\vec{b} = (-1, 1, 0)$ の両方に垂直で, 大きさが 3 のベクトル \vec{p} を求めよ.

2.1.5 位置ベクトル

空間においても点Oを定めておくと, どんな点Pの位置も, ベクトル $\vec{p} = \overrightarrow{OP}$ によって決まる. このようなベクトル \vec{p} を, 点Oに関する点Pの位置ベクトルという.



位置ベクトルを用いて空間図形の性質を調べてみよう.

A 位置ベクトル

空間においても点Pの位置ベクトルが \vec{p} であることを, $P(\vec{p})$ で表す. 以下, とくに断らない限り, 点Oに関する位置ベクトルを考える. 平面上の場合とまったく同様に, 次のことが成り立つ.

- 1 2点 $A(\vec{a}), B(\vec{b})$ に対して $\overrightarrow{AB} = \vec{b} - \vec{a}$
線分ABを $m:n$ に内分する点, 外分する点の位置ベクトルは, それぞれ

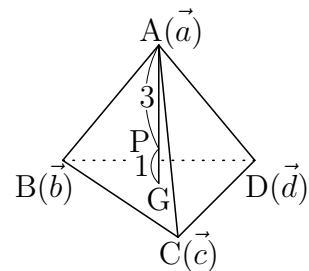
$$\text{内分} \quad \dots \quad \frac{n\vec{a} + m\vec{b}}{m + n} \quad \text{外分} \quad \dots \quad \frac{-n\vec{a} + m\vec{b}}{m - n}$$

とくに, 線分ABの中点の位置ベクトルは $\frac{\vec{a} + \vec{b}}{2}$

- 2 3点 $A(\vec{a}), B(\vec{b}), C(\vec{c})$ を頂点とする $\triangle ABC$ の重心の位置ベクトルは

$$\frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{3}$$

練習 2.13 4点 $A(\vec{a}), B(\vec{b}), C(\vec{c}), D(\vec{d})$ を頂点とする四面体ABCDにおいて, $\triangle BCD$ の重心を $G(\vec{g})$, 線分AGを3:1に内分する点を $P(\vec{p})$ とする. \vec{p} を $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}, \vec{d}$ を用いて表せ.



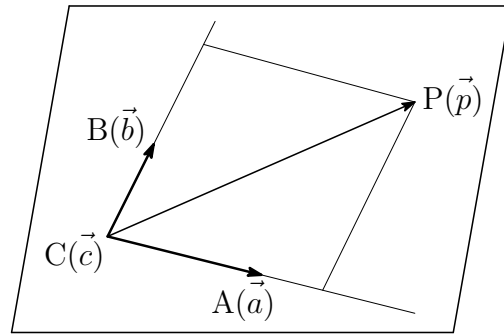
62 第2章 空間のベクトル

B 平面 ABC 上の点の位置ベクトル

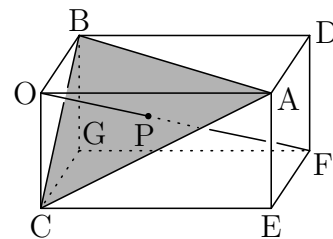
3点 $A(\vec{a})$, $B(\vec{b})$, $C(\vec{c})$ で定まる平面 ABC 上に, 点 P があるとき,

$$\begin{aligned}\vec{CP} &= s\vec{CA} + t\vec{CB} \\ &= s(\vec{a} - \vec{c}) + t(\vec{b} - \vec{c})\end{aligned}$$

となる実数 s, t が, ただ1組定まる.



応用例題 2.2 右の図のような直方体において, 対角線 OF と平面 ABC の交点を P とする.
OP : OF を求めよ.



考え方 O に関する位置ベクトルを考え, $A(\vec{a})$, $B(\vec{b})$, $C(\vec{c})$ とする. P が平面 ABC 上にあること, 線分 OF 上にあることから, \vec{OP} を $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ を用いて2通りに表す.

【解】O に関する位置ベクトルを考え, $A(\vec{a})$, $B(\vec{b})$, $C(\vec{c})$ とする.
P は平面 ABC 上にあるから, $\vec{CP} = s\vec{CA} + t\vec{CB}$ とおくと

$$\begin{aligned}\vec{OP} &= \vec{OC} + \vec{CP} = \vec{c} + s(\vec{a} - \vec{c}) + t(\vec{b} - \vec{c}) \\ &= s\vec{a} + t\vec{b} + (1 - s - t)\vec{c}\end{aligned}$$

また, P は線分 OF 上にあるから, $OP : OF = k : 1$ とおくと

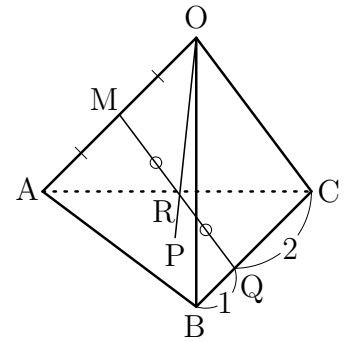
$$\vec{OP} = k\vec{OF} = k(\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}) = k\vec{a} + k\vec{b} + k\vec{c}$$

\vec{OP} の $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ を用いた表し方はただ1通りであるから

$$s = k, t = k, 1 - s - t = k$$

これを解くと, $k = \frac{1}{3}$ であるから $OP : OF = 1 : 3$

練習 2.14 四面体 $OABC$ において、辺 OA の中点を M 、辺 BC を $1:2$ に内分する点を Q 、線分 MQ の中点を R とし、直線 OR と平面 ABC の交点を P とする。 $OR:OP$ を求めよ。



64 第2章 空間のベクトル

C 内積の利用

空間のベクトルについても, 20 ページで示した内積の性質は, すべて成り立つ. 内積を利用して, 空間図形の性質を証明してみよう.

応用例題 2.3 正四面体 ABCD において, $AB \perp CD$ が成り立つ.
このことを, ベクトルを用いて証明せよ.

考え方 $\overrightarrow{AB} = \vec{b}$, $\overrightarrow{AC} = \vec{c}$, $\overrightarrow{AD} = \vec{d}$ として, $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{CD} = 0$ を示す. 正四面体の各面が正三角形であることも利用する.

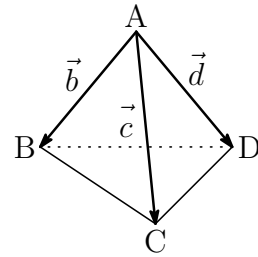
[証明] $\overrightarrow{AB} = \vec{b}$, $\overrightarrow{AC} = \vec{c}$, $\overrightarrow{AD} = \vec{d}$ とすると

$$\begin{aligned}\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{CD} &= \vec{b} \cdot (\vec{d} - \vec{c}) \\ &= \vec{b} \cdot \vec{d} - \vec{b} \cdot \vec{c} \quad \dots \textcircled{1}\end{aligned}$$

正四面体 ABCD においては, \vec{b} と \vec{d} , \vec{b} と \vec{c} のなす角は, ともに 60° であるから

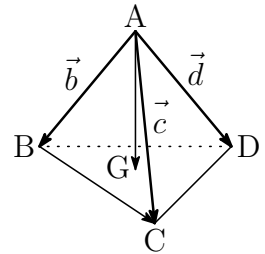
$$\begin{aligned}\vec{b} \cdot \vec{d} &= |\vec{b}| |\vec{d}| \cos 60^\circ, \\ \vec{b} \cdot \vec{c} &= |\vec{b}| |\vec{c}| \cos 60^\circ\end{aligned}$$

$|\vec{d}| = |\vec{c}|$ であるから $\vec{b} \cdot \vec{d} = \vec{b} \cdot \vec{c}$
よって, ① により $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{CD} = 0$ であり, $\overrightarrow{AB} \perp \overrightarrow{CD}$ となる.
したがって $AB \perp CD$



[証終]

練習 2.15 正四面体 ABCD において, $\triangle BCD$ の重心を G とすると, $AG \perp BC$ である. このことを, ベクトルを用いて証明せよ.



2.1.6 座標空間における図形

座標空間において, 2点間の距離, 線分の内分点・外分点の座標, 座標平面に平行な平面や球について調べてみよう.

A 2点間の距離と内分点・外分点の座標

2点 $A(a_1, a_2, a_3)$, $B(b_1, b_2, b_3)$ について, A, B 間の距離を表す式は, $AB = |\overrightarrow{AB}|$ であることから得られる.

また, 線分 AB を $m:n$ に内分する点を C , 外分する点を D とすると,

$$\overrightarrow{OC} = \frac{n\overrightarrow{OA} + m\overrightarrow{OB}}{m+n}, \quad \overrightarrow{OD} = \frac{-n\overrightarrow{OA} + m\overrightarrow{OB}}{m-n}$$

← O は原点

である. 以上から, 次のことがいえる.

66 第2章 空間のベクトル

2点 $A(a_1, a_2, a_3)$, $B(b_1, b_2, b_3)$ について

1 A, B 間の距離は $AB = \sqrt{(b_1 - a_1)^2 + (b_2 - a_2)^2 + (b_3 - a_3)^2}$

2 線分 AB を $m : n$ に内分する点の座標は

$$\left(\frac{na_1 + mb_1}{m + n}, \frac{na_2 + mb_2}{m + n}, \frac{na_3 + mb_3}{m + n} \right)$$

線分 AB を $m : n$ に外分する点の座標は

$$\left(\frac{-na_1 + mb_1}{m - n}, \frac{-na_2 + mb_2}{m - n}, \frac{-na_3 + mb_3}{m - n} \right)$$

練習 2.16 2点 $A(1, 3, -2)$, $B(4, -3, 1)$ について, 次のものを求めよ.

(1) 2点 A, B 間の距離 (2) 線分 AB の中点の座標

(3) 線分 AB を $2 : 1$ に内分する点の座標

(4) 線分 AB を $2 : 1$ に外分する点の座標

練習 2.17 3点 $A(2, -1, 4)$, $B(1, 3, 0)$, $C(3, 1, 2)$ を頂点とする $\triangle ABC$ の重心の座標を, 原点 O に関する位置ベクトルを利用して求めよ.

B 座標平面に平行な平面の方程式

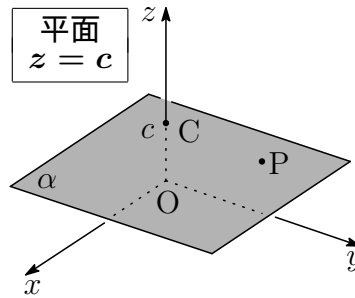
座標平面に平行な平面について考えてみよう.

点 $C(0, 0, c)$ を通り, xy 平面に平行な平面を α とする.

平面 α 上にある点 P の z 座標は常に c である.

すなわち, 平面 α は方程式

$$z = c \quad \dots \textcircled{1}$$



を満たす点 (x, y, z) 全体である.

① を平面 α の方程式という.

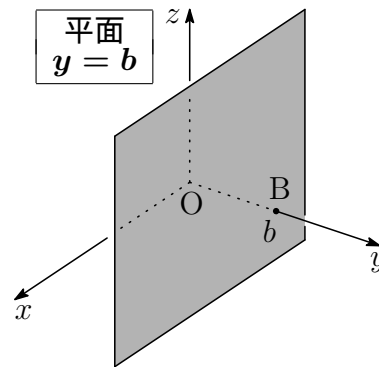
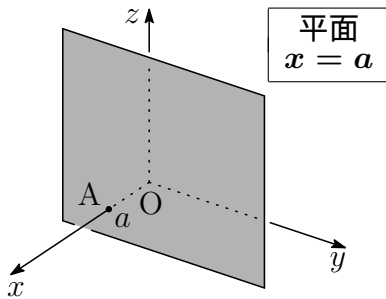
一般に, 次のことがいえる.

座標平面に平行な平面の方程式

点 $A(a, 0, 0)$ を通り, yz 平面に平行な平面の方程式は $x = a$

点 $B(0, b, 0)$ を通り, zx 平面に平行な平面の方程式は $y = b$

点 $C(0, 0, c)$ を通り, xy 平面に平行な平面の方程式は $z = c$



練習 2.18 点 $(1, 2, 3)$ を通り, 次の平面に平行な平面の方程式を求めよ.

(1) xy 平面

(2) yz 平面

(3) zx 平面

68 第2章 空間のベクトル

C 球面の方程式

空間において、定点 C からの距離が一定値 r であるような点の全体を、 C を中心とする半径 r の球面、または単に球という。

点 $C(a, b, c)$ を中心とする半径 r の球面上に点 $P(x, y, z)$ をとると、点 P は $CP = r$ を満たすので、

$$\sqrt{(x-a)^2 + (y-b)^2 + (z-c)^2} = r$$

すなわち $(x-a)^2 + (y-b)^2 + (z-c)^2 = r^2$ が成り立つ。これを、この球面の方程式という。

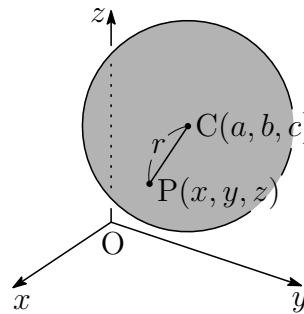
球面の方程式

点 (a, b, c) を中心とする半径 r の球面の方程式は

$$(x-a)^2 + (y-b)^2 + (z-c)^2 = r^2$$

とくに、原点を中心とする半径 r の球面の方程式は

$$x^2 + y^2 + z^2 = r^2$$



例 2.6 点 $(2, -3, 4)$ を中心とする半径 5 の球面の方程式は

$$(x-2)^2 + \{y - (-3)\}^2 + (z-4)^2 = 5^2$$

すなわち $(x-2)^2 + (y+3)^2 + (z-4)^2 = 25$

練習 2.19 次のような球面の方程式を求めよ。

- (1) 原点を中心とする半径 3 の球面
- (2) 点 $(1, 2, -3)$ を中心とする半径 4 の球面
- (3) 点 $A(0, 4, 1)$ を中心とし、点 $B(2, 4, 5)$ を通る球面

例題 2.3 2点 $A(2, 0, -3)$, $B(-2, 6, 1)$ を直径の両端とする球面の方程式を求めよ.

【解】線分 AB の中点を C とすると, この球面の中心は点 C で, 半径は線分 CA の長さである. C の座標は

$$\left(\frac{2-2}{2}, \frac{0+6}{2}, \frac{-3+1}{2}\right) \quad \text{すなわち} \quad (0, 3, -1)$$

よって $CA = \sqrt{(2-0)^2 + (0-3)^2 + \{-3-(-1)\}^2} = \sqrt{17}$

したがって, 求める球面の方程式は

$$(x-0)^2 + (y-3)^2 + \{z-(-1)\}^2 = (\sqrt{17})^2$$

すなわち $x^2 + (y-3)^2 + (z+1)^2 = 17$

練習 2.20 2点 $A(4, -2, 1)$, $B(0, 4, -5)$ を直径の両端とする球面の方程式を求めよ.

70 第2章 空間のベクトル

応用例題 2.4 球面 $(x-4)^2 + (y+2)^2 + (z-3)^2 = 5^2$ と xy 平面が交わる部分は円である．その中心の座標と半径を求めよ．

考え方 xy 平面は方程式 $z=0$ で表される．球面の方程式で， $z=0$ とすると， x, y の2次方程式が得られる．

【解】 球面の方程式で， $z=0$ とすると

$$(x-4)^2 + (y+2)^2 + (0-3)^2 = 5^2$$

すなわち $(x-4)^2 + (y+2)^2 = 4^2$ ← $5^2 - 3^2 = 16 = 4^2$

この方程式は， xy 平面上では円を表す． ← xy 平面上では， z 座標 = 0

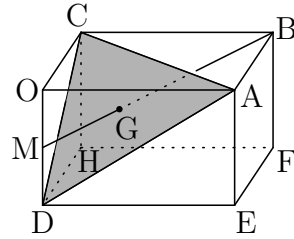
その中心の座標は $(4, -2, 0)$ ，半径は4である．

練習 2.21 応用例題 2.4 の球面と yz 平面が交わる部分は円である．その中心の座標と半径を求めよ．

2.1.7 補充問題

1 $\vec{p} = (-1, 5, 0)$ を，3つのベクトル $\vec{a} = (1, -2, 3)$ ， $\vec{b} = (-2, 1, 0)$ ， $\vec{c} = (2, -3, 1)$ と適当な実数 s, t, u を用いて， $\vec{p} = s\vec{a} + t\vec{b} + u\vec{c}$ の形に表せ．

- 2 右の図のように, 直方体 $OABC-DEFH$ において, $\triangle ACD$ の重心を G , 辺 OD の中点を M とするとき, 点 G は線分 BM を $2:1$ に内分することを証明せよ.



- 3 3点 $O(0, 0, 0)$, $A(1, 2, 1)$, $B(-1, 0, 1)$ から等距離にある yz 平面上の点 P の座標を求めよ.

【答】

$$1 \quad \vec{p} = \vec{a} - 2\vec{b} - 3\vec{c} \quad [s - 2t + 2u = -1, -2s + t - 3u = 5, 3s + u = 0]$$

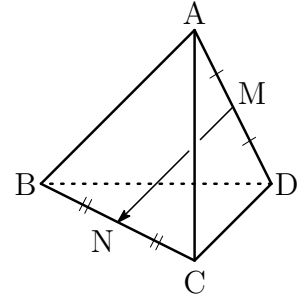
$$2 \quad \left[\begin{array}{l} \text{線分 } BM \text{ を } 2:1 \text{ に内分する点を } G' \text{ とすると, } \overrightarrow{OG'} = \frac{\overrightarrow{OB} + 2\overrightarrow{OM}}{3} \\ \text{これから } \overrightarrow{OG'} = \overrightarrow{OG} \text{ を導く.} \end{array} \right]$$

$$3 \quad (0, 1, 1) \quad [P(0, y, z) \text{ として, } OP^2 = AP^2, OP^2 = BP^2 \text{ から}]$$

2.2 章末問題

2.2.1 章末問題 A

- 1 四面体 ABCD の辺 AD の中点を M , 辺 BC の中点を N とするとき ,
 $\overrightarrow{MN} = s\overrightarrow{AB} + t\overrightarrow{DC}$ を満たす実数 s, t の値を求めよ .

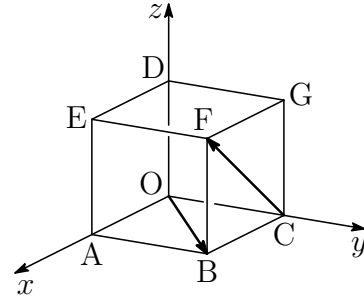


- 2 4点 $A(1, 2, 1)$, $B(5, 5, -1)$, $C(x, y, z)$, $D(-4, 2, 3)$ が平行四辺形 ABCD の頂点となるように , x, y, z の値を求めよ .

- 3 $\vec{a} = (1, 3, -2)$, $\vec{b} = (1, -2, 0)$ と実数 t に対して , $\vec{p} = \vec{a} + t\vec{b}$ とする . $\vec{b} \perp \vec{p}$ となるような t の値を求めよ . また , このときの $|\vec{p}|$ を求めよ .

4 右の図の立方体 $OABC-DEFG$ は、1 辺の長さが 2 である。

(1) ベクトル \vec{OB} と \vec{CF} を成分表示せよ。



(2) 内積 $\vec{OB} \cdot \vec{CF}$ を求めよ。

(3) ベクトル \vec{OB} と \vec{CF} のなす角 θ を求めよ。

5 $\vec{e}_1, \vec{e}_2, \vec{e}_3$ を、それぞれ x 軸、 y 軸、 z 軸に関する基本ベクトルとし、ベクトル $\vec{a} = (-1, \sqrt{2}, 1)$ と $\vec{e}_1, \vec{e}_2, \vec{e}_3$ のなす角をそれぞれ α, β, γ とする。

(1) $\cos \alpha, \cos \beta, \cos \gamma$ の値を求めよ。

(2) α, β, γ を求めよ。

74 第2章 空間のベクトル

6 2点 $A(1, 2, 2)$, $B(2, 3, 4)$ に対して, 次のような点の座標を求めよ.

(1) A, B から等距離にある x 軸上の点 P

(2) $\triangle ABP$ の重心 G

7 球面 $(x-2)^2 + (y+3)^2 + (z-4)^2 = 5^2$ と平面 $z=3$ が交わる部分は円である.
その中心の座標と半径を求めよ.

2.2.2 章末問題 B

8 3点 $A(a, -1, 5)$, $B(4, b, -7)$, $C(5, 5, -13)$ が一直線上ある.

(1) $\overrightarrow{AB} = k\overrightarrow{AC}$ を満たす実数 k の値を求めよ.

(2) a, b の値を求めよ.

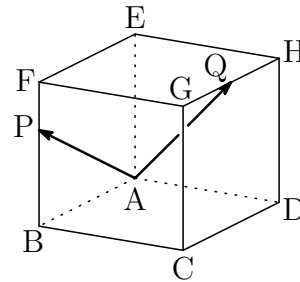
9 3点 $O(0, 0, 0)$, $A(-1, -2, 1)$, $B(2, 2, 0)$ を頂点とする $\triangle OAB$ について, 次の問いに答えよ.

(1) $\angle AOB$ の大きさを求めよ.

(2) $\triangle OAB$ の面積 S を求めよ.

10 1 辺の長さが 2 の立方体 $ABCD-EFGH$ において, 辺 BF 上に点 P をとり, 辺 GH 上に点 Q をとる.

(1) $\overrightarrow{BP} \cdot \overrightarrow{HQ}$ を求めよ.



(2) $\overrightarrow{AP} \cdot \overrightarrow{AQ}$ を $|\overrightarrow{BP}|$, $|\overrightarrow{HQ}|$ を用いて表せ.

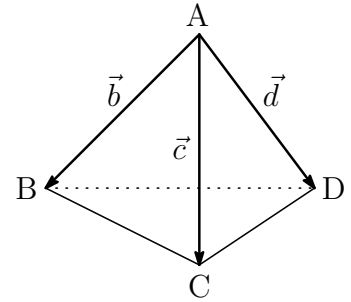
(3) $\overrightarrow{AP} \cdot \overrightarrow{AQ}$ の最大値を求めよ.

76 第2章 空間のベクトル

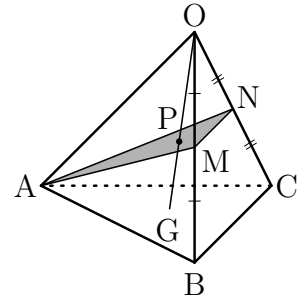
11 四面体 ABCD において、次のことが成り立つ。

$$AC \perp BD \quad \text{ならば} \quad AD^2 + BC^2 = AB^2 + CD^2$$

このことを、ベクトルを用いて証明せよ。



- 12 四面体 $OABC$ において, $\triangle ABC$ の重心を G , 辺 OB の中点を M , 辺 OC の中点を N とする. 直線 OG と平面 AMN の交点を P とするとき, $OG : OP$ を求めよ.



ヒント

- 9 ベクトルの内積を利用する. 10 $\overrightarrow{AP} = \overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BP}$, $\overrightarrow{AQ} = \overrightarrow{AH} + \overrightarrow{HQ}$ など.
 11 線分の長さの2乗をベクトルの内積で表す. 12 応用例題 2.2 参照.

78 第2章 空間のベクトル

【答】

1 $s = \frac{1}{2}, t = \frac{1}{2}$ [$\overrightarrow{MN} = \overrightarrow{MA} + \overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BN}, \overrightarrow{MN} = \overrightarrow{MD} + \overrightarrow{DC} + \overrightarrow{CN}$ を利用]

2 $x = 0, y = 5, z = 1$ [$\overrightarrow{AD} = \overrightarrow{BC}$ から]

3 $t = 1, |\vec{p}| = 3$ [$\vec{p} = (1+t, 3-2t, -2)$]

4 (1) $\overrightarrow{OB} = (2, 2, 0), \overrightarrow{CF} = (2, 0, 2)$ (2) 4 (3) 60°

5 (1) $\cos \alpha = -\frac{1}{2}, \cos \beta = \frac{\sqrt{2}}{2}, \cos \gamma = \frac{1}{2}$ (2) $\alpha = 120^\circ, \beta = 45^\circ, \gamma = 60^\circ$
 [$\vec{e}_1 = (1, 0, 0), \vec{e}_2 = (0, 1, 0), \vec{e}_3 = (0, 0, 1)$]

6 (1) $(10, 0, 0)$ (2) $\left(\frac{13}{3}, \frac{5}{3}, 2\right)$ [(1) $P(x, 0, 0)$ とおく]

7 中心の座標は $(2, -3, 3)$, 半径は $2\sqrt{6}$ [$(x-2)^2 + (y+3)^2 = 24, z = 3$]

8 (1) $k = \frac{2}{3}$ (2) $a = 2, b = 3$

9 (1) 150° (2) $\sqrt{3}$ [(1) $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = -6, |\overrightarrow{OA}| = \sqrt{6}, |\overrightarrow{OB}| = 2\sqrt{2}$]

10 (1) 0 (2) $2|\overrightarrow{BP}| + 2|\overrightarrow{HQ}|$ (3) 8
 [(2) $\overrightarrow{AP} = \overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BP}, \overrightarrow{AQ} = \overrightarrow{AE} + \overrightarrow{EH} + \overrightarrow{HQ}$]

11 [$\overrightarrow{AB} = \vec{b}, \overrightarrow{AC} = \vec{c}, \overrightarrow{AD} = \vec{d}$ として内積を利用する]

12 $5:3$ [P は平面 AMN 上にあることから, $\overrightarrow{AP} = s\overrightarrow{AM} + t\overrightarrow{AN}$ とおくと
 $\overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OA} + \overrightarrow{AP} = \overrightarrow{OA} + s\overrightarrow{AM} + t\overrightarrow{AN}$
 また, $OG:OP = 1:k$ とおくと $\overrightarrow{OP} = k\overrightarrow{OG}$]